

●提案 岡本 美穂

適当に書かれた板書とよく整理された板書を比較することで、どのような板書が理解しやすいのか改めて考えることができた。

板書に関する講座は極めて数が少ない。それは、「どのような板書が良いのかは、教科や学級の実態や教師の考え方にもよるから」とあまり真剣に考えられなかった側面もあるからではないだろうか。発問や授業の組み立てと比較すると、やや「枝葉」の部分と捉えられているためだろう。

岡本氏が提案する板書は国語であれば、個人学習で思考したことが書かれる場所、集団学習での思考したことが書かれる場所を決めているというのが参考になった。また貼物（短冊）を用意し何度も必要な言葉を言わせたり、活用したりできるよさを知った。

教師が書く字形のポイントについても学ぶことができた。ていねいな見やすい字はそれだけで子どもたちの学習意欲を高める。「す」「る」などのひらがなを例に学ぶ

ことができた。ちよつとしたこつで上手に書けるようになるようなので、がんばっていききたい。

ノートを雑に書いてしまう子がいる。ノートづくりにおける成功体験を積ませたい。まずは、正しく写すというところにチャレンジさせる。そのためにも、教師の板書が整理されたものである必要がある。

記号も使えるように指導していきたい。「一つ目はく、二つ目はく」と数字を使うこと、「矢印↓」「自分のマーク」をできるように指導したい。

こういった記号は言葉と言葉学習内容の関係性を子どもにも思考させ、整理させる働きがある。ただ板書を写しているだけでは、使えない。使おうとすると、どうしても学習内容について思考するしかない。記号を用いたノートづくりは、非常に有効だと思った。

板書づくりやノート指導という教師にとって「枝葉」ではない、ベーシックスキルについて学ぶことができた。

iPadx。パワーポイント

アクティブな学び

大達 雄 荒井 賢一

私はICT機器を授業では、ほとんど使っていません。なぜなら準備をしている間に子どもたちを待たせてしまうからです。

つまり、教師と子どもとの間にズレが出てきてしまうということですね。また、iPadなどになってくると、どうしても個別対応でしょうか、子どもと関わることができないのではないかとという疑問もありました。しかし、お二人の講座を聞いて、

- ・ 授業でのテンポやリズムが良い
 - ・ 教師の時短術になる
 - ・ 資料がより見やすくなる
 - ・ 教師の教材研究も豊かにできる
- ↓ワクワクできる

など良いところをたくさん発見できたので私もiPadを買うことにしました。

どの子も伸びる「二斉授業×ICT」について追求しておられた

中で、例えば社会の授業での導入で「歴史クイズ」などを紹介して頂きました。ここで印象的だったことは、画像を用いながら繰り返して使えること、そしてそれを学年全体で共有できること、子どもたちが全員参加を自然に行うことが出来る、ということでした。その上、特別支援の子どもへは一人一人のタイプに合わせて変えられるというのも良さだと知りました。

またどの教科にも対応しているというのも良さであると思います。途中模擬授業である国の映像を用いた道徳の授業を見せてもらいましたが、編集作業さえできれば、あつという間に子どもたちは授業へ引き込まれていくと思います。昔から引き継がれてきた授業技術十最新の技術を上手に活用する力は必要だと改めて感じました。